

# 上庄をよくするつどい

## 1 基本データ

- 地区名 上庄地区
- 地区人口 4, 040人
- 地区世帯数 1, 061世帯  
(H25.1.1 現在)
- 地区面積 28, 471<sup>㌔</sup>
- 地区の沿革

当地区は、32の集落（行政区）で構成されており、地勢的には市街地南部に位置し、日本百名山の1つ荒島岳のふもとで、東西約6<sup>㌔</sup>、南北約12<sup>㌔</sup>ほどの広さを有している。地域は、一級河川の真名川と清滝川が作り出した扇状地形で、稲作とサトイモの生産が盛んな農村地区となっている。



○実施主体 上庄をよくするつどい

## 2 現状と課題

地区の現状をみると、他地区同様、人口の微減、少子高齢化が進んでいる。各集落の活力や地域全体の活力が停滞化をしてきており、各種の地域づくり活動は行われているものの地域全体での地域おこしの機運の高まりがなかなか見えてこない現状である。

こうしたことから、今回、当地区では、地域住民自らが地域を見つめ直し、当地区の伝承や文化を再認識しその価値と魅力を高め、地域の

活性化や賑わいづくりに繋がるような事業に取り組むこととした。

## 3 事業の内容

当地区に昔から伝わる麻那姫伝説を、後世に渡り継承していきたいとの意見が関係機関の間で出、麻那姫伝説に因んだ事業に取り組むこととした。地区住民、各団体の総参加事業としていくために実行委員会を立ち上げ、事業を進めていった。

### (1) 伝説による地域おこし講演会

麻那姫伝説に因んだ継承事業を実施していくうえで、鬼伝説でまちおこしに成功した先進地の仕掛け人（京都府の旧大江町の赤松武司氏）を招き、講演会を開催した。当日は夏の週末の夜にも関わらず、100名近くの住民の参加があった。

講演では、伝説に因んだまちおこしの取組みや地域住民が一丸となって気運を高めていく手法などの教示をいただいた。



地域おこし講演会の様子

### (2) 麻那姫音頭の復活

麻那姫音頭は、平成15年頃に一時夏まつりや小学校の体育祭等で踊られていたが、それ以後踊ることがなくなっていた。

今回の事業で、以前踊っていた麻那姫音頭を復活し、地域のいろんなイベントで踊ろうという意見が出、まずは関係機関に協力を依頼し、音頭復活に取り組んだ。

小学校では、地区の指導者を招き、全校児童が2時限に分かれ、熱心に指導を受けた。この踊り練習は、夏休みのラジオ体操でも週1回踊りたいという小学校からの要望もあり、集落分のCDを作成し練習に取り組んだ。



麻那姫音頭を練習する上庄小学校児童

### (3) 麻那姫音頭の実演

こうして麻那姫音頭は、まず、今年の夏まつりで実演された。上庄中学校のジュニアリーダーもこの日のために何回も練習し、浴衣姿で舞台上に上がり指導者として先導した。小学生も練習の成果を発揮できるということで多くの子供たちが踊りに参加し、また、子供たちに引きつられて親も踊りに加わり、今年は例年以上の踊りの輪ができた。

この麻那姫音頭の実施で、夏まつり自体も盛大に開催することができた。



舞台上で踊る中学生ジュニアリーダー

### (4) 麻那姫像設置式の開催

平成11年度に地元壮年団体連絡協議会が創作した麻那姫像を一部修正し、国道157号の上庄中学校入り口付近に展示庫を設置し、地元関係者を招き、麻那姫像を展示庫する設置式を開催した。



麻那姫像を揭幕する式典関係者



麻那姫像を展示庫に設置する参加者

また、同時に展示庫のそばに設置してある鉄塔に上庄中学校全生徒から募集した「上庄に因んだ標語」および「麻那姫伝説に因んだ標語」の選考された標語看板の除幕式も行った。



標語看板を除幕する中学生

これらの設置で、まずは上庄地区内外の人々や観光客に上庄地区の麻那姫伝説をPRできるようになった。

#### 4 事業の成果

この1年間の麻那姫伝説に因んだ事業の取組みで、まずは地区住民への麻那姫伝説の周知と継承の意識付けができたと思われる。また、麻那姫音頭の復活で夏まつりがこれまで以上の賑わいとなり、夏まつりのグレードアップにも繋がった。

こうした麻那姫伝説に纏わる一連の事業の

取組みで、地区の伝承や文化を再認識するとともに、地区住民が一丸となって地域を盛り上げていこうとする意識付けができたのではないかと思われる。

#### 5 今後の展望

麻那姫伝説継承事業については、先般の各種団体連絡協議会で次年度以降も取り組んでいくことが決定した。イベントを主体としたソフト事業と麻那姫像展示庫の周辺のハード整備を継続的に進めていく予定である。

ソフト事業は、今秋、麻那姫感謝祭を実施するが決定し、この感謝祭の開催により地域の賑わいと区民の絆を深め、地域の活性化につなげていきたい。

また、ハード整備事業については、麻那姫像展示庫周辺に植栽などを行い、地区内外の人々が立ち寄っていただけるよう環境整備を進めていきたい。

麻那姫伝説継承事業は、今年度からのスタートした事業であり、今後も地区住民へのさらなる周知と事業の参加、協力をお願いし取り組んでいきたい。